

# 平成28(2016)年度 人権尊重のまちづくりに向けた意識実態調査 三木市外国人市民実態調査報告書

## 概要版

三木市では、一人一人の人権が尊重される明るく住みよいまちづくりを進めるため、平成13(2001)年1月に「三木市人権尊重のまちづくり条例」を施行し、各種団体や市民の皆様とともに差別をなくすためのさまざまな取組を進めています。

しかしながら、少子高齢化、情報社会の進展やグローバル化など社会環境の変化に伴い、三木市に居住されている外国人は、平成23(2011)年9月末の957人から平成28(2016)年9月末の1,137人へと急激に増加しています。

このたび市では、これらの変化を受け、外国人市民の意識と実態を明らかにし、多文化共生社会の実現に向けた人権施策推進のため、「三木市外国人市民実態調査」を実施しました。

その結果は次のとおりです。

- 調査対象：外国人市民を含む全世帯(844世帯)につき1人

※10か国語の調査票を作成した

- 調査方法：郵送及びインタビュー調査

- 調査基準日：平成28(2016)年10月1日

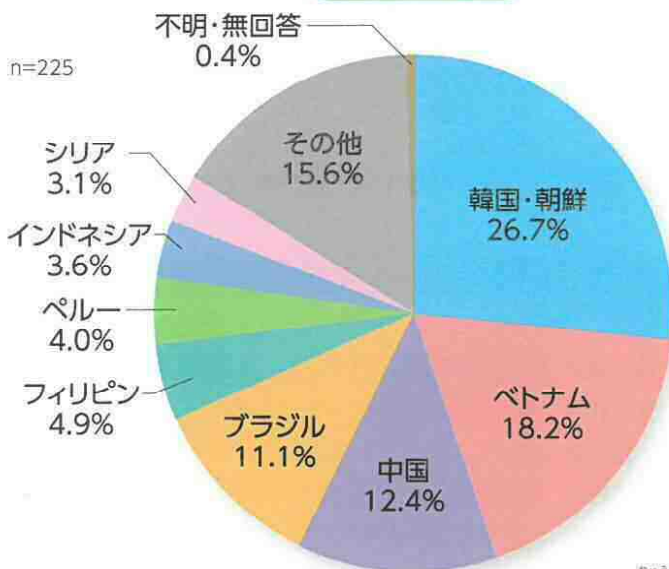
- 調査期間：平成28(2016)年9月12日～10月31日

※インタビュー調査については、調査基準日に先行して、三木市国際交流協会主催の「ことばの教室(日本語クラス)」で行いました。

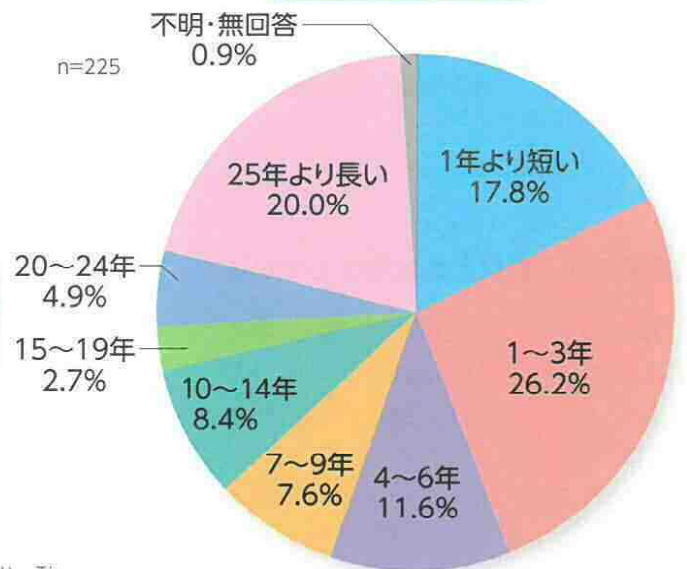
配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
844	225	26.7%	225	26.7%

### 回答者の属性

#### 国籍の内訳



#### 居住年数の内訳



### 留意点

- この報告書(概要版)では、調査結果のうち、主な項目について紹介します。
- 複数回答を求めた設問や、小数点以下第2位で四捨五入したことにより、比率の合計が100%ではない場合があります。
- 報告書の概要版は、日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、アラビア語があります。

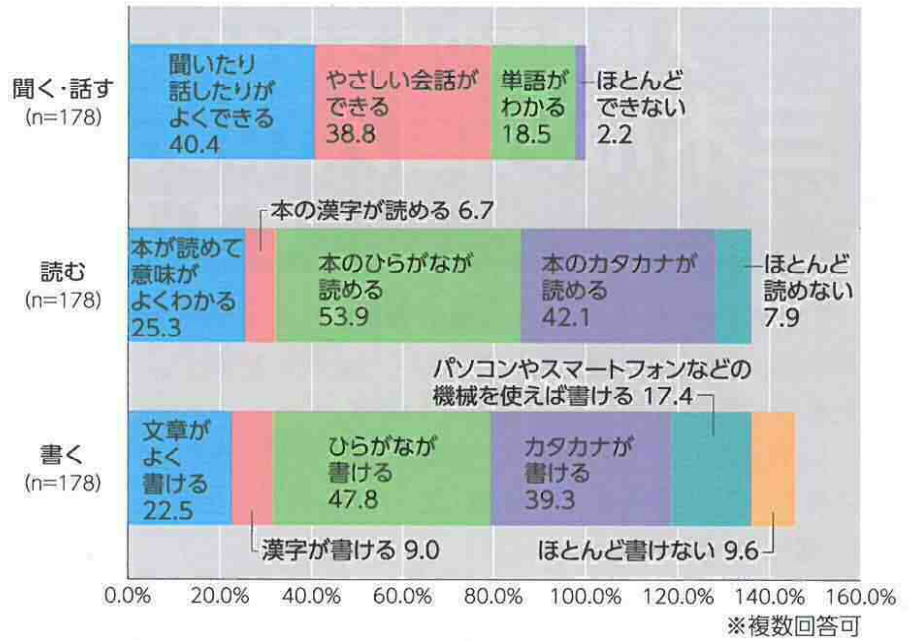


## 居住年数 25年未満の方で「聞いたり話したりがよくできる」という回答は約4割

居住年数 25年未満の方に自分の日本語能力について伺ったところ、「聞いたり話したりがよくできる」という回答は約4割、「本が読めて意味がよくわかる」「文章がよく書ける」という回答は約2割でした。一方、「ほとんどできない」という回答もそれぞれ2~10%程あり、なかでも「ほとんど読めない」人、「ほとんど書けない」人がそれぞれ約1割という結果でした。

※25年以上居住されているほとんどの方が、日本語で生活されているため、居住年数25年未満の方を対象にしました。

## 居住年数25年未満※の方の日本語能力



## ベトナム国籍の人の 居住期間は「1年より短い」が約4割

三木市での居住期間について国籍別の最も多い人の期間は、中国国籍の人は「1年より短い」、韓国・朝鮮籍の人は「25年より長い」、ベトナムとその他アジアの人は「1~3年」、中南米の人は「4~6年」となっています。また、ベトナム国籍の人は「1年より短い」が39.0%で、あわせると9割以上の方が3年以下となっています。

※国籍とのクロス集計のため、3名の国籍不明者は除いています。

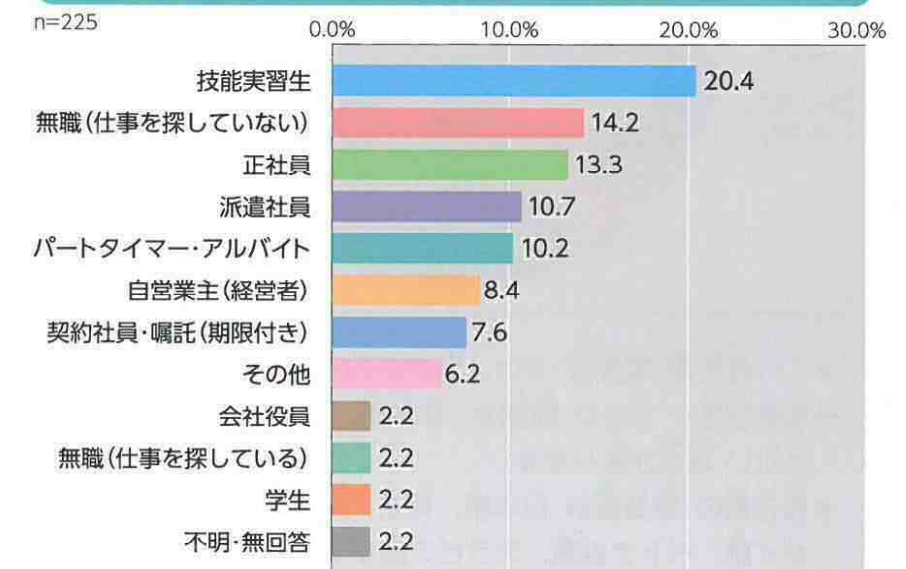
## 国籍別居住年数



## 回答者の7割以上は 仕事をしている

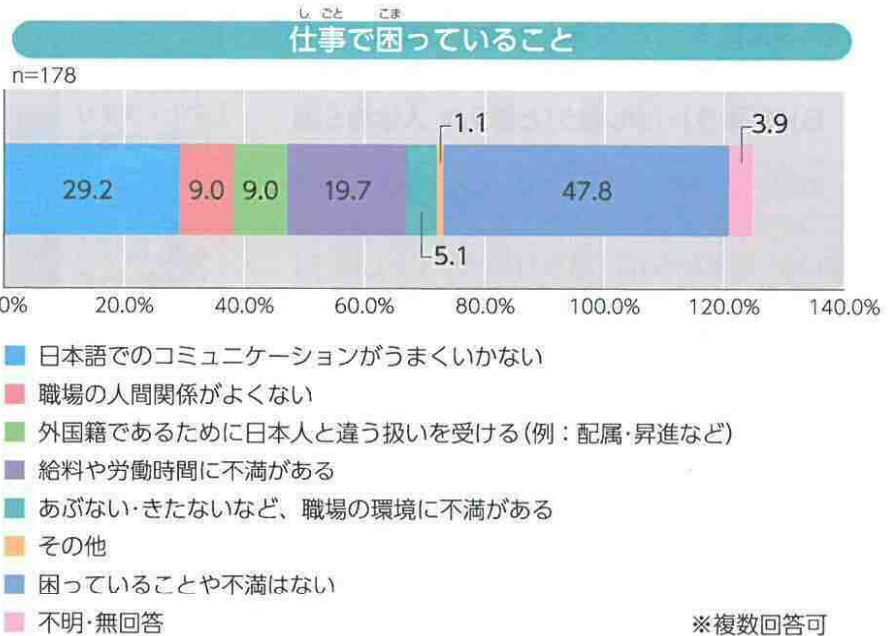
「技能実習生」が20.4%で最も多く、次いで「無職(仕事を探していない)」が14.2%、「正社員」が13.3%、「派遣社員」が10.7%、「パートタイマー・アルバイト」が10.2%となっています。仕事をしている人の割合としては、あわせて7割を超えています。

## 就労の形態



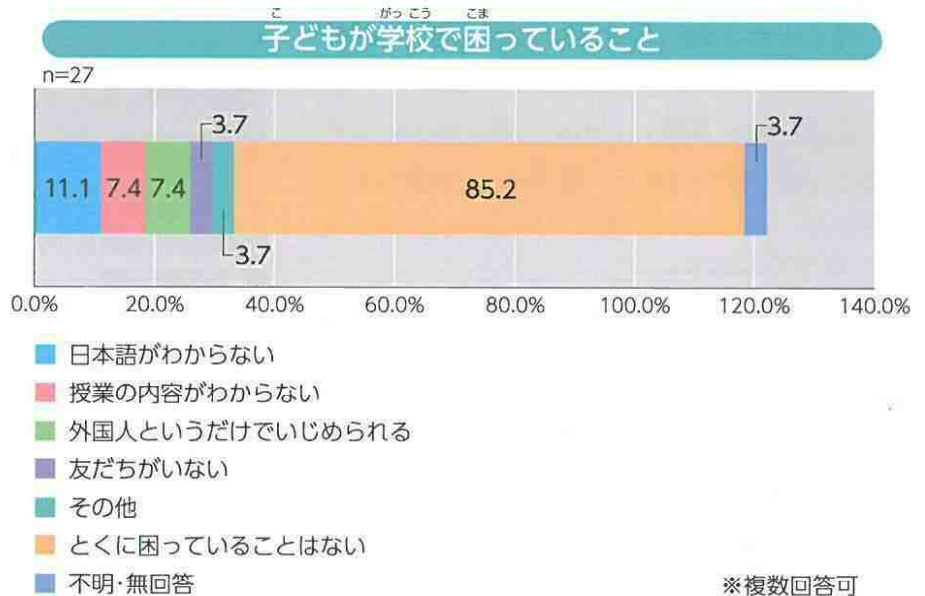
## 仕事で困っていることは「日本語でのコミュニケーションがうまくいかない」が約3割

「困っていることや不満はない」が47.8%で最も多くなっていますが、一方で「日本語でのコミュニケーションがうまくいかない」が29.2%、「給料や労働時間に不満がある」が19.7%、「職場の人間関係がよくない」と「外国籍であるために日本人と違う扱いを受ける(例：配属・昇進など)」がともに9.0%となっています。



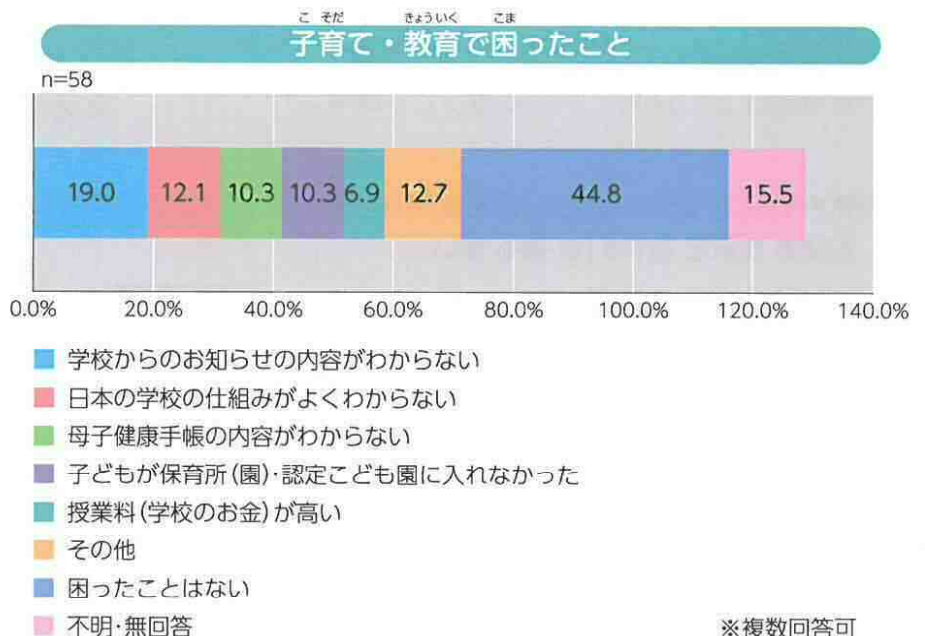
## 子どもが学校で困っていることについては、「日本語がわからない」が1割

「とくに困っていることはない」が85.2%で最も多くなっていますが、一方で「日本語がわからない」が11.1%、「授業の内容がわからない」と「外国人というだけでいじめられる」がともに7.4%、「友だちがいない」が3.7%となっています。



## 子育て・教育で困ったことについては、「学校からのお知らせの内容がわからない」が約2割

「困ったことはない」が44.8%で最も多くなっていますが、一方で「学校からのお知らせの内容がわからない」が19.0%、「日本の学校の仕組みがよくわからない」が12.1%、「母子健康手帳の内容がわからない」と「子どもが保育所(園)・認定こども園に入れなかった」がともに10.3%となっています。





## 外国人に対して日本人と違う対応がある原因について「文化・決まりに違いがあるから」で「思う」「少し思う」と答えた人は約5割

外国人に対して日本人と対応が違う場合についてたずねたところ、「①文化・決まりに違いがあるから」に「思う」「少し思う」の合計)と答えた人が48.4%に対し、「思わない」「あまり思わない」「思わない」の合計)と答えた人は27.6%となっています。一方、「③外国人の生活レベルが低いから」に「思う」「少し思う」の合計)と答えた人は、20.9%に対し、「思わない」「あまり思わない」「思わない」の合計)と答えた人は41.4%となっています。

## 仕事以外の地域活動に「参加していないが、参加したい気持ちがある」が約3割で最も多く、約5割の方は何らかの活動に参加している。

地域活動の内容としては、「住んでいるところの活動」が24.4%と一番多く、「参加していないが、参加したい気持ちがある」が28.4%となっています。

## 「日本語教室」、「外国人市民相談窓口」とともに「知らない」が半数を超える。

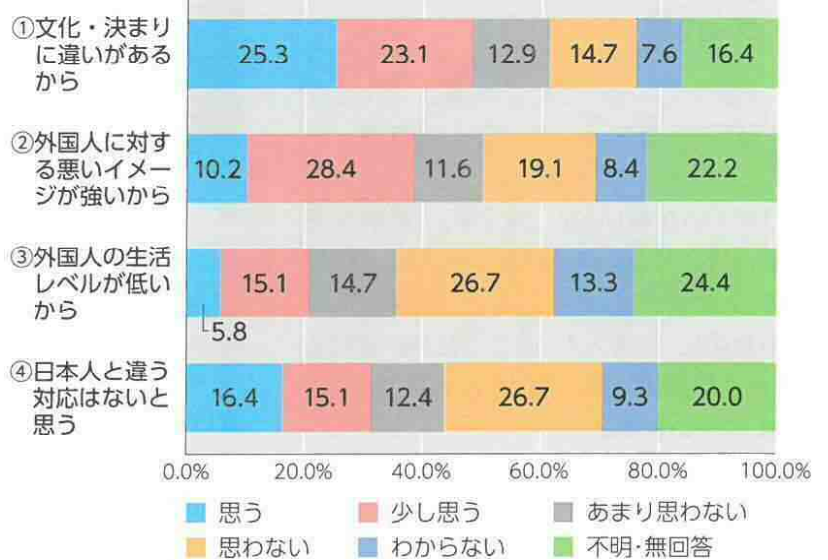
「①日本語教室」「②外国人市民相談窓口」についてたずねたところ、「①日本語教室」「②外国人市民相談窓口」とともに半数以上が「知らない」と答えています。一方、「利用した」は日本語教室で18.7%となっていますが、外国人市民相談窓口は3.6%と少なくなっています。

## 市の取組で大切なことは「②市役所内で外国語の表示を増やす」が最も多い

市役所の取組で大切なことを尋ねたところ、「①通訳の制度をよくする」「②市役所内で外国語の表示を増やす」「③市のホームページの表記内容をわかりやすくする」とも約6割の方が「大切(「とても大切である」と「大切である」の合計)」と答えており、中でも「②市役所内で外国語の表示を増やす」が最も多くなっています。

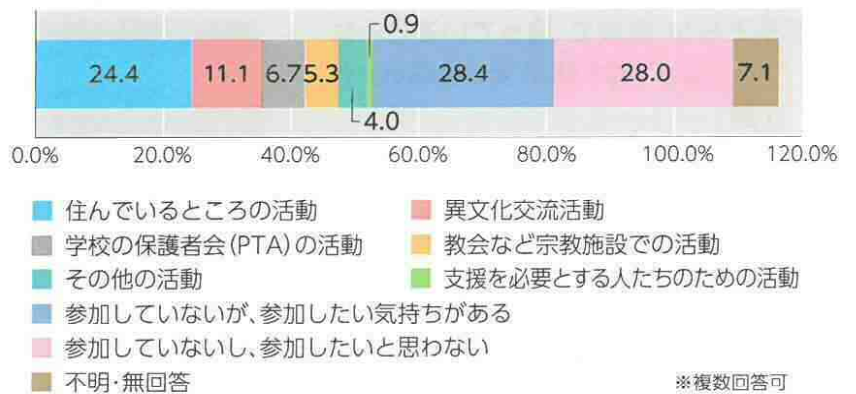
## 外国人に対する差別に次のような原因があると思うか

n=225



## 仕事以外でしている地域活動

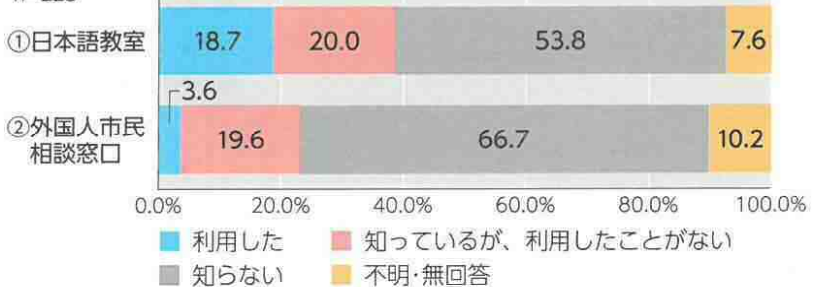
n=225



※複数回答可

## 次のようなサービスを知っているか

n=225



## 市の取組で大切だと思うこと

n=225

